

読解と発表におよぼす方言の影響

～鹿児島方言に対する教育心理学的研究 第1報～

The Effects of Kagoshima Dialect to the Reading and Speaking

淵 上
FUCHIGAMI

孝
TAKASHI

篠 原
SHINOHARA

優
YUTAKA

(一) 展 望

あまねく知られているように、鹿児島県では、独特の方言がもちいられている。多少の程度に差があっても、全国各地にそれぞれの方言があり、したがって共通語や標準語の概念規定にも、複雑な問題があげられる。ところで、鹿児島方言は他県の人たちがはじめて耳にした場合、断片的な単語がすこしわかるだけというように、全国各地の方言のうち、とくにいちじるしい特異性があり、わからない方言の代表とさえいわれている。

このような方言があるために、多くの鹿児島人には、方言コンプレックス (Dialect Complex) による人格形成の歪曲がみられやすい、排他的、保守的、徒党的、事大的な県民性がつくられやすい、音声言語の障害による職場への不適応や、人間関係での障害がおこりやすい、児童生徒では、読解や発表をめぐる学業不振の要因になりやすいなどと、伝統的、常識的に語られてきた。

鹿児島方言のもつ県民への問題点をより具体的にあげれば次のとおりである。

- (1) 幼稚園、小学校、中学校での教育実践で、共通語指導が、大きな比重をしめやすい。
- (2) 校区や地域をあげての共通語使用運動が、しばしば報道されている。
- (3) 各学校や全県的な学力調査の報告で、共通語指導の必要がつよくとかれている。
- (4) 共通語での会話では、自分の考えを表現できにくいと、普遍的に語られている。
- (5) 婦人会長に持されたが、共通語使用の困難から自殺した事例があるように、人格的特性の要因として、音声言語の能力が、異常な比重をしめやすい。
- (6) 他県人をまじえての集会では、発言に劣等感や不安感をもち、積極性にかげやすい。
- (7) 他県での本県人相互の対談が、しばしば韓国語や中国語によるそれと誤解されやすい。
- (8) 他県へ就職した新卒業生たちが、電話をかけたたり、客と交渉することで、いちじるしい困難があると語られる。
- (9) 他県へ転住した本県人たちは、音声言語の障害から、社交性や明朗性にかげやすい。
- (10) 方言的人格としての排他性、徒党性、激情性、形式性、保守性、事大性などがみとめられやすいなど。

ところで、テレビ、ラジオなどの急速な普及にともなって、全国各地の方言は、しだいに解消の

一途をたどると語られる。しかし、本県の方言は、次のような理由のため、全国の諸地域に比較して、より長期にわたって残存し、本県人の二国語的な音声言語の生活は、かなり永くつづくものと思われる。

- (1) 関西方言と共通語に似た関係が、鹿児島方言と共通語のそれにもうかがえる。すなわち、多くの知的階層者や都市居住者は、方言のもつ問題をみとめつつ、方言に愛着をもち、一種のほこりさえいだいている。
- (2) 小学校の言語指導によって、共通語をもちいようと努力し、かなり普遍的に共通語を使用しているが、中学校に入学するとくずれてしまうと、多くの教師によって語られる。中学校の男子生徒では、とくに方言への復帰がめだっている。
- (3) 歴史的、地理的な諸要因のため、本県は封建性にのこされた最後のとりでであるときえ語られている。そのことはまた、保守的な言語生活にもつながっている。

以上のように、鹿児島方言は本県の教育的、文化的、社会的な諸分野で、その発展と充実をはかるための多くの問題を提示しているが、教育心理学的に分析すれば、鹿児島方言をめぐる研究課題として、次の諸点があげられる。

(1) 本県における方言使用の実態

都市、農村、僻地、離島などという地域類型による方言使用の差異をあきらかにするとともに、性、年齢、職業、社会的地位 (**Social Status**)、修学年令、他県での居住経験などによる差異を解明する。さらに、方言だけを使用するもの、共通語だけを使用するもの、両者いずれでも使用するものなどの頻度にも留意する。

(2) 人間形成におよぼす方言の影響

家庭教育、学校教育、社会教育を背景として、本県人の知的、情緒的、社会的な発達におよぼす方言の影響をあきらかにする。小学校、中学校などでの教育実践では、知能度や家庭環境などの要因で統制した場合、方言群と非方言群に、教科の種類や学力の分節によって、どんな差異があるかをたしかめる。読解と発表におよぼす方言の影響をあきらかにすることも、その一つである。さらに「共通語指導の実践に、全校的な努力を継続したところ、生活指導にも、大きな効果がみとめられた」としばしばとかれるが、人格形成におよぼす方言の影響についても検討する。

(3) 言語的発達におよぼす方言の影響

言語的発達は音声言語と文字言語の二側面にわけられる。音声言語では、幼児、児童、青年、成人などを対象に、語彙数、語法の正しさ、発言の長さ、発言の積極さ、言語の流暢さ、発語の抵抗、要点の理解などの諸分野で、方言群と非方言群に、どんな差異があるかをたしかめる。幼児期における言語環境が、音声言語の発達におよぼす影響については、とくに留意して検討する。文字言語をめぐる研究は、学校教育におよぼす方言の影響と併行的にとりあげる。

(4) 本県人および他県人の方言に対する態度

方言に対する態度には、好意的なもの、非好意的なもの、共通語または方言への一辺倒に考え

るものと、両者の共存を考えるもの、一定の条件のもとで好意的に考えるものや、改良をとくものなどと、多くのものにわけられる。さらに、ひとしく本県人といっても、他県での居住経験をもつものと、そうでないものがある。他県人もまた、本県へ転入しているもの、居住経験はもっていても、現在は他県に住んでいるもの、観光、放送、文書、口頭などで、鹿児島方言について知識や経験を多くもっているものと、そうでないものなどにわけられる。このような区別を考えながら、地域、性、職業、社会的地位、修学年数などの観点から分析する。

(5) 県外に転住した本県人の共通語への適応

県外に就職あるいは進学した中学校、高等学校などの卒業生や、一般転住者を対象として、職場、学校、居住地域などでの音声言語をめぐる困難の有無や程度ならびに、それに対する適応の経過をあきらかにし、人格構造、性、能力、職種、居住地域などの立場からの分析も実施する。

(6) 本県へ転住した他県人の方言に対する適応

本県へ転住する場合、他県人の予想する最大の困難点の一つとして、しばしば方言があげられる。方言ばかりの会話では、異国人を余儀なくされやすいからである。居住年数の経過にともなう方言への適応では、幼少時に転住するほど、よく適応する、理解能力は表現能力に先行する、青年前期を過ぎての転住者では、方言による表現はいちじるしく困難である、男性より女性の適応がすぐれている、外国語への適性がたかければ、方言への適応もすぐれているなどと語られている。転入当時の年齢、本県での居住期間、言語環境などを背景とし、きく、はなすの能力を中心に、性、人格構造、職種、社会的地位、修学年数、言語経験などの観点から分析する。

なお、多くの人たちが認知しているように、ひとしく鹿児島方言といっても、地域によって若干の差異があり、さらに、方言と共通語の区別にも、多くの問題がある。語彙、語法、アクセント (Accent)、イントネーション (Intonation) はもちろんのこと、共通語と方言の混用、場による使用言語の変化、能力と表現の差異などを考える時、方言群や共通語群の設定や方言度の個別的診断にも、複雑な要因があげられる。ここでは巨視的、操作的な立場をとり、ある個人のもちいている音声言語が、方言か共通語かあるいはその程度はどうかの判別は、方言テストの結果、教師や父母などによる評定、面接時の観察などにもとづいて決定することにした。

(二) 問 題

本報告は鹿児島方言に対する教育心理学的な解明についての第1報であるが、その内容として、次の諸点に関する研究結果をとりあげている。

- (1) 本県の小学校、中学校の児童生徒を対象として、方言使用の実態をあきらかにする。性別、学年別、地域別に実態を分析的に検討する。
- (2) 読解におよぼす方言の影響をあきらかにする。方言をよくもちいており、しかも、それと共通語との落差がいちじるしいために、読解をめぐる学業不振になりやすいという伝統的、普遍的な見解に、実証的な解明をこころみたい。

(3) 音声言語での発表におよぼす方言の影響をあきらかにする。多くの場を内容とする児童生徒の言語生活で、よく方言をもちいるかどうかによって、種々の機会での口頭発表や談話に差異があるとする見解に、実証的な検討をくわえたい。

以上の三つの問題にはかなりの異質性がうかがえる。とくに方言使用の実態は、別の報告書を用意すべきであるともいえる。過去の学会では、二回にわけて発表したのであるが、ここでは、便宜上、第1報として、三者をあわせてとりあげることにした。

(三) 方 法

(1) 実施期間 昭和38年6月から、昭和39年7月にかけて、調査やテストをおこなった。

(2) 実施対象 都市と農村の、小学校3校、中学校3校に依頼し、小3、小6、中2の3学年にまたがる Table 1 の児童生徒に実施した。依頼した学校は次のとおりである。

Table 1 調査実施の対象

地域	学 年 性		小 3		小 6		中 2		計
	m	f	m	f	m	f			
都 市	125	101	114	119	125	112	696		
農 村	97	93	126	116	151	162	745		
計	222	240	240	235	276	274	1441		
備 考	共通語得点との相関の研究のため、以上のほかに小6の2学級児童74名も対象とした。								

(イ) 鹿児島市立草牟田小学校

(ロ) 始良町立三船小学校

(ハ) 山川町立大成小学校

(ニ) 鹿児島市立清水中学校

(ホ) 始良町立山田中学校

(ヘ) 山川町立大成中学校

(3) 実施手続 具体的な研究手続のあらましは次のとおりである。

(イ) 実施対象の全児童生徒に、付録(1)の「方言しらべ」をおこなった。

(ロ) 方言得点算定基準を設定して、個別に方言得点を算出した。その算定基準は、それぞれの項目に作られた選択肢で、「はい」を4、「いいえ」を0、「どちらでも」および「不明」を2として作成した。

(ハ) 「方言しらべ」の15項目のうち、直接的に児童生徒の音声言語をたしかめている10項目を対象として、各児童生徒の方言得点を考えた。えらんだ項目は1, 2, 3, 4, 5, 6, 9, 11, 12, 13である。

(ニ) 各児童生徒の方言得点を集計して、地域差、性差、学年差をたしかめた。

(ホ) 次の公式によって、方言得点を方言指数 (Dialect Quotient, DQ) に換算した。

$$\text{方言指数 (DQ)} = \frac{\text{個人方言得点 (IDS)}}{\text{完全方言得点 (CDS)}} \times 100$$

(ヘ) 知能テストの結果と家庭環境を等質要因として統制し、方言群と共通語群を設定した。

(ト) 対象とする児童生徒に、相互評定による付録(2)の「発表しらべ」を実施して、発表得点と非発表得点を個別的に集計した。得点の算出は、発表、非発表とも、それぞれ二段階に設定した選択肢を2と1に計算し、それぞれにあげられた姓名の個人別の頻度との積をもとめることに

した。

- (4) おなじ児童生徒に、学年別に構成した付録(3)の教師作成読解テストを実施し、個人別の読解点を算出した。このテストは鹿大教育学部代用付属田上小学校および伊敷中学校の担当教師によって作成されたものを、共同研究者によって検討したものである。第一学期末における読解成績を評価することをねらいとして作成されている。
- (リ) 個人別の読解得点を方言群と共通語群にわけて、群別の比較をこころみた。
- (ヌ) 読解得点と共通語得点の相関(Correlation)をあきらかにするために、付録(4)の教師作成読解テストを、時間無制限と時間制限で、草牟田小学校6年生の2学級に実施した。時間制限は各問8分、合計40分と、各問3分、合計15分の2段階とした。なお、このテストは前記田上小学校の担当教師たちによって作成された国語科第1学期末評価用のテストを蒐集し、共同研究者によって、適当な読解問題だけをえらんでいる。
- (ル) 全国学力調査、発表についての教師評定、児童の課題作文などを、草牟田小学校6年の2学級からあつめ、共通語得点と、それらの評価結果との相関をあきらかにした。

(四) 結 果

(1) 方言使用の実態

調査の対象とした都市、農村の小3、小6、中2の児童生徒における方言使用の実態を、地域別、学年別、性別に分析すると、Table 1 から Table 8 および Figure 1 のとおりである。これらの結果から、次のことがうかがえる。

- (イ) 学年がすすむにつれて、より多く方言を使用する。都市の小3男と小6男、農村の小6女と中2女をのぞいて、いずれの場合にも、下学年と上学年をくらべると、有意の差をもって、上学年の方言得点がたかくなっている。都市の小3男と小6男には有意差がみられないが、これは質問紙法の信頼度、発達の早発化などの立場からの検討が必要である。農村の小6女と中2女にも有意差がみとめられなかったが、その理由について、さらに検討をくわえたい。ところで、児童生徒たちの方言使用度が学年の推移とともにたかくなるということについては、発達とともに、音声言語の能力がより豊富になるとの解釈も可能である。しかし、学校教育での共通語指導や、家庭教育として心ある父母たちによるそれを考える時、本県での言語指導をめぐる多くの問題が提供されている。
- (ロ) 農村の児童生徒たちは都市にくらべて、より多く方言を使用する。
小3の男女をのぞいて、すべて農村の児童生徒たちは、都市のそれにくらべて、有意の差をもって、より多く方言を使用する。小3の男女では、逆の傾向になっているが、低学年児童に対する質問紙法の限界や、発達促進現象などの観点から、さらに検討をくわえたい。
- (ハ) 女兒にくらべて男児はより多く方言を使用する。
すべての学年で、しかも都市と農村の両者で、この傾向がうかがえる。とくに、農村の小6、

都市と農村の中2では、いずれも有意の差をもって、男子の方言得点がたかくなっている。このことについては、音声言語の発達における女児の優位、教育環境における指導の性差、言語環境に対する適応の性差など、多くの見地からの分析が必要である。

Table 2 方言使用度の学年差(1)

地域	対象 得点	小 3 m			小 6 m			備 考
		N	M	S D	N	M	S D	
都 市		125	15.9	6.8	114	15.0	6.1	P<0.01
農 村		93	15.0	5.8	119	23.1	4.9	

Table 3 方言使用度の学年差(2)

地域	対象 得点	小 6 m			中 2 m			備 考
		N	M	S D	N	M	S D	
都 市		114	15.0	6.1	124	20.7	5.8	P<0.01
農 村		119	23.1	4.9	151	28.0	5.2	P<0.01

Table 4 方言使用度の学年差(3)

地域	対象 得点	小 3 f			小 6 f			備 考
		N	M	S D	N	M	S D	
都 市		100	16.6	10.7	118	13.8	7.0	P<0.05
農 村		91	14.3	5.3	116	18.5	5.8	P<0.01

Table 5 方言使用度の学年差(4)

地域	対象 得点	小 6 f			中 2 f			備 考
		N	M	S D	N	M	S D	
都 市		118	13.8	7.0	112	17.2	6.7	P<0.01
農 村		116	18.5	5.8	161	18.5	5.7	

Table 6 方言使用度の地域差

学年	性	地域 得点	都 市			農 村			備 考
			N	M	S D	N	M	S D	
小 3	m		125	15.9	6.8	93	15.0	5.8	P<0.05
	f		100	16.6	10.7	91	14.3	5.3	
小 6	m		114	15.0	6.1	119	23.1	4.9	P<0.01
	f		118	13.8	7.0	116	18.5	5.8	
中 2	m		124	20.7	5.8	151	28.0	5.2	P<0.01
	f		112	17.2	6.7	161	18.5	5.7	

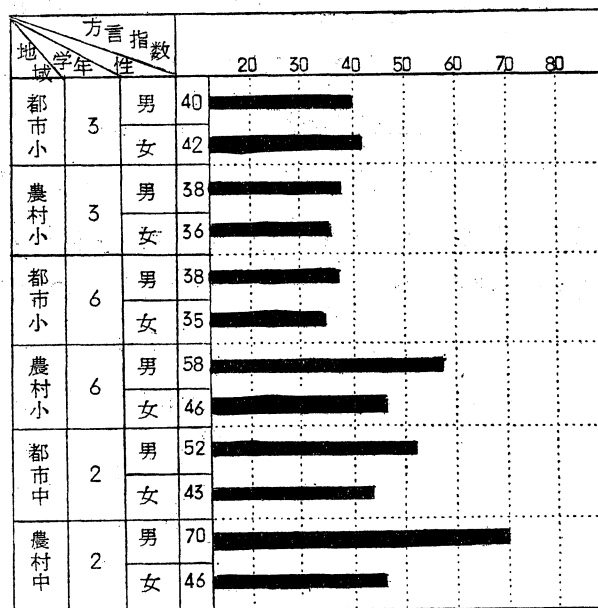
Table 7 方言使用度における性差

地域	学年	得性別		m	f	備考
		N	S D			
都市小	3	M	125	100	15.9 16.6 6.8 10.7	
		S D				
農村小	3	M	93	91	15.0 14.3 5.8 5.3	
		S D				
都市小	6	M	114	118	15.0 13.8 6.1 7.0	
		S D				
農村小	6	M	119	116	23.1 18.5 4.9 5.8	P<0.01
		S D				
都市中	2	M	124	112	20.7 17.2 5.8 6.7	P<0.01
		S D				
農村中	2	M	151	161	28.0 18.5 5.2 5.7	P<0.01
		S D				

Table 8 方言使用度の学校別性差

学校	学年	性		m	f	備考
		N	S D			
都市小	3	M	125	100	15.9 16.6 6.8 10.7	
		S D				
農村小(A)	3	M	64	67	15.7 15.2 6.1 5.3	
		S D				
農村小(B)	3	M	29	24	14.2 11.9 5.0 4.6	
		S D				
都市小	6	M	114	118	15.0 13.8 6.1 7.0	
		S D				
農村小(A)	6	M	98	84	22.8 16.2 6.1 4.9	P<0.01
		S D				
農村小(B)	6	M	28	32	24.3 24.3 5.6 4.1	
		S D				
都市中	2	M	124	112	20.7 17.2 5.8 6.7	P<0.01
		S D				
農村中(A)	2	M	88	103	28.7 16.9 4.0 5.3	P<0.01
		S D				
農村中(B)	2	M	63	58	27.1 20.9 6.4 5.6	P<0.01
		S D				

Figure 1 地域別, 学年別, 性別方言指数の比較



(3) 読解と発表における方言群と共通語群の差異

各児童生徒の方言得点と完全方言得点の差をもとめ、その絶対値をもって、共通語得点とした。たとえば、ある児童の方言得点が21であれば、 $40-21=19$ となり、この児童の共通語得点は19となる。算出した共通語得点を集計して、その上位と下位のそれぞれ31%を共通語群ならびに方言群とした。この両群について、付録(3)および(4)の読解テストの得点と、付録(2)の「発表しらべ」の実施結果をまとめると、Table 9 から Table 17 のとおりである。なお、Table 9 と Table 10 は、付録(3)の読解テストにおける読解問題だけの得点を、地域別、学校別、学年別、性別にまとめたものであり、Table 15, Table 16, Table 17 は、知能度による統制をくわえて比較したものである。知能度による統制は、知能偏差値で43から57の巾とした。これらの結果から、次のことがうかがえる。

- (イ) 読解得点では、両群に有意差がみられない。ただ、傾向としては、共通語群がすぐれている。ところで、県教委の学力調査報告書や、多くの教師や父母たちの伝統的な教育的見識では、国語の読解問題や、算数の文章問題を中心とした学力に、鹿児島方言がいちじるしい打撃をあたえているとされてきた。しかし、われわれの共同研究の結果によれば、これらの見解は、部分的な真理であるということになる。つまり、方言と読解には、たかい本質的な相関はないといえてよい。
- (ロ) 共通語群は方言群より発表得点がすぐれている。とくに、小6と中2において顕著である。ただし、標準偏差も共通語群がいちじるしくたかくなっている。このことは、よく発表するかどうかということには、共通語がよく使えるという音声言語における能力差のほか、多くの人格的要因がはたらくからであると思われる。ともあれ、共通語得点のたかいものは、発表得点もたかいということは、社会的、教育的に語られてきた伝統的な常識とも符節を合わせた結果である。他県人をまじえた集会で、本県人の発言が消極的である、共通語をもちいての電話のかけ方や客との交渉で困惑する。児童生徒の学習時の発表で、頭をかいたり、「エート」をチック症的に連発する傾向があるなどということは、日常生活でもちいている音声言語と、特定の場でもとめられるそれとに、いちじるしい落差があることによると思われる。
- (ハ) 共通語群は方言群より、非発表得点がひくい。とくに小6と中2の児童生徒において顕著である。これは(ロ)の結果と相即的であり、裏返しの現象といえてよい。なお、方言群における非発表得点のたかさは、言語的能力そのものでの問題とともに、言語的な劣等感や不安感などという情緒的な要因も、このことに大きな比重をしめているものと思われる。

Table 9 読解テストの総合得点

学校	学年	性 得点	性		備考
			m	f	
都市小	3	N	124	102	
		M	68.1	71.6	
		S D	20.6	18.8	
農村小(A)	3	N	73	70	P<0.01
		M	45.1	53.5	
		S D	23.3	20.4	
農村小(B)	3	N	27	25	
		M	51.9	55.4	
		S D	20.8	17.2	
都市小	6	N	112	121	P<0.01
		M	77.7	81.9	
		S D	13.9	9.7	
農村小(A)	6	N	98	81	
		M	59.1	59.6	
		S D	14.0	19.3	
農村小(B)	6	N	28	32	P<0.05
		M	52.7	61.9	
		S D	13.9	16.3	
都市中	2	N	123	115	
		M	63.9	60.7	
		S D	16.4	17.8	
農村中(A)	2	N	88	103	P<0.01
		M	57.0	49.7	
		S D	13.6	15.2	
農村中(B)	2	N	63	59	
		M	44.5	46.8	
		S D	12.0	11.8	

Table 10 読解テストの部分得点

学校	学年	性 得点	性		備考
			m	f	
都市小	3	N	124	102	
		M	22.8	23.7	
		S D	11.1	10.6	
農村小(A)	3	N	73	70	
		M	13.8	14.9	
		S D	10.8	10.1	
農村小(B)	3	N	27	25	
		M	17.6	17.4	
		S D	9.4	9.9	
都市小	6	N	112	121	
		M	29.1	30.5	
		S D	7.3	6.6	
農村小(A)	6	N	98	81	
		M	21.4	22.0	
		S D	8.4	8.1	
農村小(B)	6	N	28	32	P<0.01
		M	17.8	23.3	
		S D	7.9	9.6	
都市中	2	N	123	115	
		M	23.8	22.5	
		S D	9.2	8.3	
農村中(A)	2	N	88	103	
		M	18.4	17.4	
		S D	7.8	9.5	
農村中(B)	2	N	63	59	
		M	15.8	15.2	
		S D	8.3	7.9	

Table 11 両群における知能度の比較

学校	学年	群 得点	共通語群			方言群			備考
			N	M	S D	N	M	S D	
都市小	3		60	51.0	9.6	59	48.5	10.1	P<0.05
農村A小	3		31	39.8	10.9	29	34.6	8.7	
農村B小	3		14	49.0	2.4	9	49.2	10.8	
都市小	6		55	58.2	13.2	56	54.8	14.1	P<0.05
農村A小	6		35	53.4	6.6	41	47.4	10.2	
農村B小	6		13	37.3	12.2	16	46.3	7.6	
都市中	2		57	51.1	10.8	63	49.3	9.8	
農村A中	2		44	44.8	9.8	44	44.2	7.1	
農村B中	2		22	44.6	9.6	35	41.9	10.0	

Table 12 両群における読解得点の比較

学 校	学 年	群 得 点	共 通 語 群			方 言 群			備 考
			N	M	SD	N	M	SD	
都 市 小	3		64	24.7	10.1	61	21.0	11.2	P<0.05
農 村 A 小	3		34	17.0	10.9	30	13.4	11.5	
農 村 B 小	3		14	14.4	4.9	10	21.2	9.6	
都 市 小	6		51	29.8	6.4	54	29.2	7.1	
農 村 A 小	6		38	22.8	8.6	41	20.7	8.6	
農 村 B 小	6		13	18.5	9.3	16	18.8	7.7	
都 市 中	2		56	24.4	9.7	65	23.9	9.0	
農 村 A 中	2		44	16.6	9.7	44	19.1	10.2	
農 村 B 中	2		23	15.8	7.7	35	15.5	8.7	

Table 13 両群における発表得点の比較

学 校	学 年	群 得 点	共 通 語 群			方 言 群			備 考
			N	M	SD	N	M	SD	
都 市 小	3		67	37.3	64.5	61	25.8	58.1	
農 村 A 小	3		34	19.9	42.0	31	29.9	56.2	
農 村 B 小	3		14	27.8	36.9	10	44.8	68.6	
都 市 小	6		55	38.4	68.7	57	18.5	38.7	
農 村 A 小	6		38	26.3	34.0	41	17.1	43.0	
農 村 B 小	6		13	9.6	17.9	16	21.4	27.0	
都 市 中	2		59	13.9	28.5	68	12.9	37.0	
農 村 A 中	2		44	8.7	19.4	44	11.3	23.6	
農 村 B 中	2		23	22.7	34.5	35	12.5	28.3	

Table 14 両群における非発表得点の比較

学 校	学 年	群 得 点	共 通 語 群			方 言 群			備 考
			N	M	SD	N	M	SD	
都 市 小	3		67	21.8	27.4	61	25.9	31.6	P<0.01 P<0.05
農 村 A 小	3		34	19.0	23.4	31	20.6	21.8	
農 村 B 小	3		14	30.9	30.4	10	48.2	59.4	
都 市 小	6		55	24.8	42.6	57	26.7	33.1	
農 村 A 小	6		38	12.9	18.8	41	40.0	58.1	
農 村 B 小	6		13	27.9	27.6	16	13.4	13.0	
都 市 中	2		59	8.3	8.1	68	15.4	22.3	
農 村 A 中	2		44	16.8	24.8	44	16.1	28.4	
農 村 B 中	2		23	24.4	24.7	35	21.5	27.5	

Table 15 知能統制による読解得点の比較

学 年	群 得点	共 通 語 群			方 言 群			備 考
		N	M	SD	N	M	SD	
小	3	48	20.4	9.4	48	18.7	10.9	
小	6	48	24.6	7.8	54	25.0	7.7	
中	2	51	21.0	7.9	58	20.5	8.0	

Table 16 知能統制による発表得点の比較

学 年	群 得点	共 通 語 群			方 言 群			備 考
		N	M	SD	N	M	SD	
小	3	48	13.3	19.6	49	10.1	13.3	
小	6	48	10.5	16.3	54	4.1	5.5	P<0.01
中	2	51	9.1	17.0	58	2.3	2.8	P<0.01

Table 17 知能統制による非発表得点の比較

学 年	群 得点	共 通 語 群			方 言 群			備 考
		N	M	SD	N	M	SD	
小	3	48	18.1	15.5	49	21.4	23.1	
小	6	48	15.4	17.4	54	22.4	20.3	P<0.05
中	2	51	5.6	5.0	58	9.3	8.8	P<0.01

(3) 共通語得点と諸得点の相関

草牟田小学校6年生の2学級児童を対象として、共通語得点と諸得点の相関係をもとめると、Table18のとおりである。この表から次のことがうかがえる。

- (イ) 読解得点と共通語得点の相関は、ひくい本質的相関にとどまっています、おおむね0.3前後である。常識的、教育的には、0.5程度の本質的相関があるかのごとく語られてきたが、このような見解は、かならずしも正しくないといえる。
- (ロ) 共通語得点と発表得点もひくい相関にとどまっている。これは(2)の結果と若干ちがっているが、2学級74名という小標本の誤差にもとづくものと思われる。
- (ハ) 共通語得点と非発表得点にも、おなじ様相がうかがえる。
- (ニ) 読解テストの実施時間に、各問題8分あるいは3分の制限をくわえても、相関係数には、さして変動はみられない。ただ、きびしい制限をくわえると、団体知能テストの結果と、その際読解得点との相関は、いちじるしくたかくなっている。より以上のきびしい制限をくわえた場合には、どうなるかについて、さらに検討をくわえたい。

Table 18 共通語得点と諸得点の相関

学 級	事 項	r	備 考
6の3	共通語得点と国語得点	0.36	学力調査
" "	共通語得点と読解得点	0.23	" "
" "	共通語得点と書取得点	0.21	" "
" "	共通語得点と聴取得点	0.31	" "
" "	共通語得点と発表得点	0.18	発表しらべ
" "	共通語得点と非発表得点	0.22	" "
" "	共通語得点と教師評定発表得点	0.33	学級担任
" "	共通語得点と知能度	0.36	小高田中B
" "	共通語得点と作文得点	0.26	夏休みをむかえて
" "	共通語得点と算数得点	0.35	学力調査
" "	共通語得点と時間制限(各問8分)読解得点	0.36	読解テスト
6の5	共通語得点と時間制限(各問3分)読解得点	0.25	" "
" "	知能度と時間制限(各問3分)読解得点	0.70	" "
" "	共通語得点と発表得点	0.25	発表しらべ
備 考	6の3—40名 6の5—34名		

(五) 要 約

常識的な見解や推察には、しばしば独断や誤解が混在すると語られる。児童生徒の方言使用の実態をあきらかにし、読解と発表におよぼす方言の影響をあきらかにするために、前述のような諸方法ですすめた研究結果からも、このことの正しさが立証されている。つまり、本県での教育的な常識として語られているほどに、読解に対する方言の影響はたかくないといえる。しかし、発表におよぼす影響では、常識的な見解がより妥当性をもっている。

本県の都市と農村にわたる小3、小6、中2の児童生徒1515名を対象に、方言しらべ、発表しらべ、読解テストなどを実施し、さらに諸資料をあつめた上、統制群法をもちつつ、方言使用の実態や方言群と共通語群の差異をあきらかにしたが、その結果を要約すると、次のとおりである。

- (1) 本県の児童生徒は普遍的に方言をもちいている。児童生徒の自己評定で、完全に共通語だけの言語生活をおくっているとすものは約2%である。
- (2) 児童生徒の所属学年がすすむにつれて、より多く方言がもちいられている。
- (3) 農村の児童生徒は、都市のそれにくらべて、より多く方言を使用する。
- (4) 男児は女児にくらべて、より多く方言をもちいている。

- (5) 読解に対する方言の影響は、さしてたかくない。共通語群と方言群における読解得点は、傾向としての差にとどまっている。
- (6) 読解得点と共通語得点の相関は、おおむね0.3で、ひくい本質的關係がしめされている。
- (7) 発表、非発表については、方言得点の多少による影響が、明確にうかがわれる。

ところで、鹿児島方言の教育心理学的アプローチの一環として、方言使用の実態と読解や発表と方言の関係をあきらかにするこの研究主題には、残されている多くの分野がある。より詳細な実態調査、テレビ視聴の質や量の統制による比較、PGRにおける発語の抵抗からみた両群の差異、方言や発表をめぐる質問紙法の検討、特定の教示をあたえた場における言語活動の分析、言語的発達における両群の差異などがその一例である。鹿児島方言をめぐる広汎な研究分野への展望をもちながら、それらの問題についても、ささやかな研究のあゆみをつづけたいと話しあっている。

参 考 文 献

- (1) 測上孝・篠原優・仁王義彦：鹿児島方言に対する教育心理学的研究（第1報）昭和38年度九州心理学紀要
- (2) 測上孝・篠原優・仁王義彦：鹿児島方言に対する教育心理学的研究（第2報）昭和39年度九州心理学会紀要

付 記（この研究は鹿児島市立玉龍高等学校教諭仁王義彦氏の協力をえて実施した。）

付 録 1 方 言 し ら べ

学校	男・女	年 組	いえ しごと 家の職業	名 前
これは心理学の ^{しんりがく けんきゆう} 研究のためのものです。みなさんの ^{せいせき} 成績には関係がありません。できるだけ ^{しょうじき} 正直に自分にあてはまる答に○をつけてください。				
1	あなたは学校でべんきょうの時間には方言（かごしまのことば）をつかっていますか。		はい いいえ ときどき きょうつうご 共通語（きれいなことば）と まぜて	
2	あなたは学校で休みの時間には方言をつかっていますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
3	あなたは先生とお話をする時、方言をつかいますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
4	あなたは知らない人とお話をする時方言で話しますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
5	あなたは学校の外で友だちとお話をする時方言をつかいますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
6	あなたの家では方言をつかっていますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
7	あなたのお父さんは家族の人たちとお話をする時方言をつかいますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
8	あなたのお母さんは家族の人たちとお話をする時方言をつかいますか。		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
9	あなたは家でお父さん、お母さん、兄さん、姉さん、と話す時は方言をつかいますか。（四人そろっていなくてもかきなさい）		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
10	あなたは家で弟、妹と話す時方言をつかいますか。（弟も妹もいない人はかかないでかまいません）		はい いいえ ときどき 共通語とまぜて	
11	あなたは共通語で話すのと、方言で話すのとどちらが話しやすいですか。		方言が話しやすい。共通語が話しやすい。どちらでもよい。	
12	あなたはなるべく共通語をつかおうとつとめていますか。		はい いいえ なにも考えない	
31	あなたは学校の外（ ^{ぶらく きんじよ} 部落や近所など）で共通語をつかって笑われたことがありますか。		はい いいえ ときどき	
14	あなたは学校でべんきょうの時間以外で共通語をつかって笑われたことがありますか。		はい いいえ ときどき	
15	あなたは家で、お父さんお母さんになるべく共通語をつかうようにすすめられていますか。		いつもすすめられている。 ときどきすすめられている。 すすめられていない。	

付 録 2 はつ びよう 発 表 し ら べ

小学校 中	男 女	年 組	名 前	発表得点	※
<p>これはテストではありません。できるだけ正 直<small>しょうじき</small>に思ったとおりに書いてください。あてはまる人はなん<small>ひと</small>人かいてもかまいません。男子が女子を女子が男子を書いてかまいません。おなじ姓<small>せい</small>がありますので姓と名前をかいて下さい（山下太郎のようにかくのです。）</p>					
1	<p>あなたの組<small>ぐみ</small>でべんきょうの時間に、よく発表<small>はつびよう</small>するのはだれですか。よく発表すると思う人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんよく発表する			よく発表する	
2	<p>あなたの組でべんきょうの時間にあまり発表しないのはだれですか。あまり発表しないと思う人の名前を書いてください。</p>				
	ほとんど発表しない			ときに発表する	
3	<p>あなたの組で学級児童会<small>がくきゅうじどうかい</small>やホームルームなどでよく発表するのはだれですか。その人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんよく発表する			よく発表する	
4	<p>あなたの組の学級児童会やホームルームなどであまり発表しないのはだれですか。その人の名前を書いてください。</p>				
	ほとんど発表しない			ときに発表する	
5	<p>あなたの組で、べんきょうの時間に、話し方のじょうずなのはだれですか。お話のうまいと思う人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんじょうず			じょうず	
6	<p>あなたの組でべんきょう時間に話し方のへたなのはだれですか。話し方がへただと思う人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんへた			へた	
7	<p>あなたの組で休み時間などでの話し方のじょうずな人はだれですか。その人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんじょうず			じょうず	
8	<p>あなたの組で休み時間などでのお話のへたなのはだれですか。その人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんへた			へた	
9	<p>あなたの組でべんきょうの時間によく先生<small>しつもん</small>に質問するのはだれですか。その人の名前を書いてください。</p>				
	たいへんよく質問する			よく質問する	
10	<p>あなたの組でべんきょうの時間に先生への質問をあまりしないのはだれですか。その人の名前を書いてください。</p>				
	ほとんど質問しない			ときに質問する	

学 力 テ ス ト	小学校 三年	組 名 前	<p>(一) つぎの () をつけたかん字によみがなをつけなさい。</p> <p>(1) 教室の黒板 (2) 花畑をつくる。</p> <p>(3) 交通のはげしい都市 (4) ぼくの妹</p> <p>(5) 犬を追う。 (6) 荷物に注意する。</p> <p>(二) 次の□の中のことばからよいものをえらんで、() の中へいれて文をつくりなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>のろのろ ひらひら がやがや そよそよ ゆらゆら みしみし</p> </div> <p>(1) 子どもたちの () () シャベる声がかきこえる。 (2) むこうから牛が () () 歩いてくる。 (3) 風が () () ふいてきます。 (4) 木のはがなみに () () ゆれています。 (5) ちよーちよが () () とんでいきます。</p>
-----------------------	-----------	-------------	---

<p>(2) ぐるりぐるり回っているのはなにですか。 () ()</p> <p>オ () () エ () () ウ () () イ () () ア () ()</p>	<p>(1) この汽船が夜の海を走っているとどうことが () のことばでわかりますか。それをぜんぶつぎの () () の中にかきなさい。 わか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>汽船が (1) その船室には たくさんのじよう客がねむっています。海のむこうには 島があります。 (2) その島にはとうだいが立っています。</p> <p>とうだいの光は ぐるり ぐるりと回っています。汽船のほうから見ると、光がいたりきえたりしているように見えるのです。汽船は (2) その光をたよりに 進んでいきます。</p> </div>	<p>(三) つぎのことばをかん字とひらがなをつかって書きなさい。</p> <p>(1) はこばれる () () やすむ () () (2) はなす () () うごく () () (3) およぐ () () あかるい () () (4) はれる () () うつくし () () (5) くらい () () おくる () ()</p>
---	---	--

学 力 テ ス ト	中学校	二年	組 名 前

(一) 次の漢字に読みがなをつけなさい。

(1) 巧() 妙() (2) 万() 卷() の 書() (3) 誓() 約()

(4) 催() 促() (5) 繁() 茂() (6) 曇() 天()

(7) 経() 験() (8) 遠() 慮() (9) 撰() 取()

(六) 次の () に「にも」「とも」「かも」の中からよいことばをえらんで書き入れなさい。

(1) 「よしこさん」 () 、しれませんよ。「

(2) 「よしこさん」 () 、あそびなさいね。「

(3) 「よしこさん」 () 、みせてあげなさいよ。「

(4) 「よしこさん」 () 、できますよ。「

(七) 送りがなを () に書きなさい。

(1) もちいる……用 ()

(2) ととのえる……整 ()

(3) はたす……果 ()

(4) いとなむ……営 ()

(5) ゆたかな……豊 ()

(二) 次のことばを口語で言うと () の中のどれに当たりますか。
正しいと思うものの記号に○をつけなさい。

(1) 桜咲きけり。(イ、桜が咲きました) ロ、桜が咲いている

(四) 次の文を読んであとの問に答えなさい。

どんな本でも読まなければならないということはない。本は多すぎるのである。どれも読まなければならないとあっては、人生は短すぎるし、われわれの精神のかたにも限りがある。大食は胃腸をそこね、したがって健康をそこねると同じように、あまり読みすぎては頭のためによくない。速く読むのもいいし、

イ

もいちがいに悪いとは言わないが、しかし精読できるものは

□ すべきであるし、読んで感動しすぎる時は先を

読めなくなることも自然であろう。自分の生命のかてになるものを

読むべきである。ただ読むのではない。自分の生命のかてとして読むべきである。

(三) 次の四つの「ぬ」のうち、二つだけ他とちがった意味をもつものを見つけ、その番号に○をつけなさい。

1 春の日の雨しきふればガラス戸の曇りて見えぬやまぶきの花。

2 朝開く黄のたんぼの露けさよ口寄する馬のしかられて行きぬ。

3 春の月弟ふたり笛ふいて上行く岡を母とながめぬ。

4 ほととぎすはやも来なきてしのびねもらす夏は来ぬ。

5 もの言わぬは口ふくるるわざとげに古人もときぬ。

(2) 星が光りぬ。(イ、星が光った) ロ、星が光らない ハ、星が光りだした

(3) 雲ありけらし。(イ、雲はなかった) ロ、雲はありました ハ、雲があったようだ

(4) いと高し、(イ、たいへん高かった) ロ、たいへん高い ハ、たいへん高いので

(5) 鳴りいでし。(イ、鳴っている) ロ、鳴りだした ハ、鳴りおわった

(1) 右の文の「□」の中に、次の語群から、最も適当なものを選んで記号を書き入れなさい。

- a 速読
- b 精読
- c 多読
- d 乱読

(2) 右の文で言おうとしていることをまとめると次のどれにあたるかを考え、もっともよいと思うものを一つえらんで、その記号に○をしなさい。

ア、われわれは精神のかてに限りがある。本もあまり読みすぎるべきでない、

イ、人生は短すぎるので、大いに精読すべきである。

ウ、精読できるものは精読し、さらに自分の生命のかてとして読むべきである。

エ、速く読むのもいいし イ もいちがいにわるいとはいえないが健康も考えたい。

(3) 「大食は胃腸をそこね」とありますが、それは次のような本のよみ方の中で、どれをたとえていますか。もっともよくあてはまるものの記号に○をつけなさい。

- a 乱読
- b 速読
- c 精読
- d 多読

(四) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本を読む利益は自分を賢くすることだ。本気になって生きられることだ。まちがいない生き方をする事だ。

①それから、つまり賢くすることと同一かも知れないが、いろいろ珍しいことを知らしてくれることだ。自然のこと、人生のこと、物質のこと、精神のこと、人類が今日まで発達してきたこと、人知の今日まで発達してきたことなどと、人間に関する、また人間の心を何かの意味で動かすこと、②それが残らず本に書かれているのだ。人間のあらゆる知識、あらゆる経験、③それがみな本の中に書けるだけ書いてあるのだ。④それを読むと⑤それらのことが、その人の

力にに応じてわかるのだ。読書の利益の偉大さはそれで想像できると思う。健康な読書法は、どこに何が書いてあるということにはこだわらず、自分の生命に役に立つものを遠慮なく摂取することである。生きることが目的である。⑥それでこそほんとうの読書法である。

(1) 右の文章を内容の上から二つわけるとすればどこでわけたらよいでしょうか。ここでわけるところへ「を」をして、一段落の終りの五字をつぎの () () の中へかきなさい。

(2) それぞれの段落でのべていることを、十字以内でかきなさい。

まえの部分 ()
あとの部分 ()

(3) 「人間に関する」ということはどの語につづきますか。つづくところへ矢じるしをして、次の () () の中にかきなさい。

(4) 右の文章の中で「それ」ということは六つありますが、そのうち一つだけつかいかたのちがっているのはどれですか。その番号を次の () () の中へかきなさい。

() ()

(四) 次の——のことばの意味を下の文やことばから一つえらんでその記号を () () の中へかきなさい。

- (1) なぎさに立ちて ()
- イ、向こう岸
 - ロ、みさき
 - ハ、波うちぎわ
 - ニ、波の打ちよせる岩かど

(2) きりの花見て
めしはみてゐる
()

イ、めしを食べている
ロ、めしをたいている
ハ、めしのしたくをしている
ニ、めしをながめている
イ、つがゆいっぱいおっている。

(3) お花畑は
つゆしとどなり
()

ロ、つゆがしとすとたれている。
ハ、つゆがかわいている。
ニ、つゆがふっている。

(4) くりやにありて
ながきたそがれ
()

イ、夜中
ロ、さびしさ
ハ、夕暮れ時
ニ、晩

(5) みちのくに病む母上にいささかの
きうりを送るさはりあらすな
()

イ、ふれないでほしい。
ロ、くさらないでとどいてほしい。
ハ、病気がすすんではこまる。
ニ、病気がわるくならないでほしい

(七) 次の文のかなを漢字になおさない。

(1) こう どう () できる () はん い () たん ちよう () な
せい かつ () さく しや () の () い けん ()

(4) とお () すい へい せん () なつ くさ () しげる ()
こ せん じよう ()

付録4 読解テスト 六年組 氏名

一、次の文はトーマス・エジソンのことばです。あとに書いた四つのうちで、どれが彼の精神をもっともよくあらわしていますか。()
の中に○をつけなさい。

わたくしは、一つの発明を完成すれば、もうその発明には用がない。
多くの人は、発明からくる収入を努力に対するむくいのように考えるかも知れぬが、わたくし自身は、少なくともそうは思わぬ。
わたくしの最大の喜びは、努力して仕事をするのである。

- 1 () 発明によって収入を得たいと思う。
 - 2 () 発明が完成したから、これで仕事は一段落つけた。
 - 3 () 研究することに喜びを感じて、あくまで仕事を続ける。
 - 4 () 発明の完成するのはうれしいが、仕事はなみたいではない。
- 二、次の文を読んで、あとの間に答えなさい。

朝早く川岸に出た。清い川の流れは岩にぶつかり、あわを立てて流れている。ある岩の上に自分は立った。自分は顔をあらひ、うがいをつかった。

問「川の水」はどんなようすでしょうか。よいと思うもの一つをえらび、その符号に○をしなさい。

- 1 にごって流れが速い。
- 2 にごっているが、流れは速くない。
- 3 すんでいて、流れが速い。
- 4 すんでいるが、流れは速くない。

三、次の文の() にぴったりする言葉を後にあげたものの中から、えらび、その符号を() の中に書き入れなさい。

- 1 冬空は低く() とくもっている。
 - 2 草の葉が夜つゆに() とぬれている。
 - 3 空には() と白いちぎれ雲が浮んでいる。
 - 4 桜の花が() と咲きほこっている。
 - 5 菜の花畑に() とちようがまっている。
- ① ひらひら ② びっしょり ③ ぼんやり ④ どんより
 ⑤ ぶらぶら ⑥ しんしん ⑦ ふわふわ ⑧ らんまん

四、次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

童話、物語、偉人伝など、本にもいろいろありますが、その中で世界的な、また日本を代表するほどのものを、みなさんの時代に読んでおくことは、一生の大きな収穫といえるでしょう。①そこでこの書物を読む時にわすれてならないことは、わからないところをわかって努力も大切ですが、自分でわかったと思っていると、案外、実際にはいいかげんであったり、気持の上だけでのみこんでいる程度であったりすることが多いことです。②それではすぐれた書物をほんとうに読み味わったとはいえません。③だから、わかったと思っていることの中に、読みちがいをし、読みわすれていることばはないかと、自分にききかえてみる必要がある読書の態度ではないでしょうか。

イ、この文は二つにわけられますが、文の中の①②③のいずれからでしょうか。正しい番号を下の() に書き入れなさい。

ロ、作者は読書の態度として、どれがいちばんよいといっていますか。よいものの() に○を書き入れなさい。

- 1 () わからないところをわかって努力する。
- 2 () 読みちがいをし、読みわすれていることばはないか。自分に聞きかえす。
- 3 () いいかげんに気持の上だけでのみこんですらすらと読む。

五、次のことばの内容を最もよくしめしているものをそれぞれ一つずつえらび、その番号を○でかきなさい。

(イ) とりとめのない

- 1 鳥をとめてやらない。
- 2 とっておくことができない。
- 3 つかみどころがない。
- 4 なんにもならない。

(ロ) おもむろに歩く

- 1 はげしく歩く
- 2 いそいで歩く
- 3 しっかり歩く
- 4 ゆっくり歩く

(ハ) おろか

- 1 かれの家では、ねこはおろか犬も飼っている。
- 2 こんな大雪では十キロはおろか、五キロもあるけい。
- 3 かれは数学はおろか、まだ学校にもはいっていない。

(ニ) もっともらしく

- 1 あの人の英語のうまいのは、もっともらしくない。
- 2 もっともらしく話すのは、ためになる。
- 3 あまり読めないくせに、もっともらしく英字新聞を読んでいる。

六、次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくたちが何かもの考えるとき、じぶんのことを中心にして考えないで、いつもその一ばんのものになるもの、たとえば人類のためとか、民族のためとか、自分たちのためとかいう考え方、そういう考え方のできる人を知性をもった人とよぶのです。汽車の中で、こんでいるときに、年とった人がはいつてくる。こしかけるところがないかと、一生けんめいにさがしている。そのとき、だれかが席をゆずってあげる。そうすると、その年をとった人はあわてて、おおいそぎでこしかける。このとき、お礼をいうのを忘れる人がよくある。そういう人たちは、何も礼儀を知らない人ではない。じつは喜んでいるのであるが、「こしかけるところがないか」ということだけで頭がいっぱいになっていたので、ついお礼をいうことをわすれてしまうのです。つまり自分のことだけしか考えていないのです。これは性質が悪いのでもなければ行儀が悪いのでもないのです。ただ「知性」がないのです。

自分がいい人のことが考えられない人なのです。

問イ この文を内容の上から二つにわけたいと思います。第二段のはじめのことはをかんとんに書きなさい。

問ロ 次の五つの文の中から、この文がいわゆるおうとしていることを、もっともよく表わしているものをえらび、その番号を○でかこみなさい。

- 1 年とった人には席をあけ、いたわってあげなければならぬ。
- 2 席をゆずられても、お礼のいえないような人は、礼儀知らずである。

- 3 お礼をわすれたのは喜んだためで、性質がわるいのではない。
- 4 ほんとうに知性をもった人というのは、こんだ汽車の中で、席をゆずるような人である。

5 知性をもった人とは、自分のことよりも、人類のためとか、民族のためとか、いつも大きな考え方のできる人である。

問ハ この文に題をつけるとしたら、次のどれがよいでしょうか。その番号を○でかこみなさい。

- 1 汽車の中でのできごと。
- 2 お礼をいわすれた人
- 3 敬老の精神
- 4 知性をもった人
- 5 席をゆずる気持

七、次の文を読んで、後の問いの答の中で、もっともよいと思うものを一つずつえらびその番号を下の□の中に書き入れなさい。

「もういいかあ。もういいかあ。」遠くでこういう声がする。

かくれんぼのおにが言ってるらしいが、「もういいかあ」は少し間がぬけていると思った。わたしは、二階で、手紙を書いている。

まもなく、下の往来を、ひとりぼろり、ひとりぼろりかけて足音が、してきた。ふたりは、かけながら何かせわしく話し合っていた。

(ロ)それがやむと、今度は、景気のいい調子で、

「もう、いいよう。」

わたしの妹の、よし子の声である。

わたしは手紙を書き続けていた。しばらくして、ふうをしながら気がつくど、下では子どもらが何かしきりに言い合いをしていた。わたしは、つくえごしに手を延べ、しょうじを五すんばかりあげてみた。

前のうちの少しくぼんだ門の所に、よし子と、オデットというよし子よりも一つか二つ下のフランス人の小むすめとが、ならんで立っている。(イ)それと向かい合ってジョールというむすめのにいさんが、短い半ズボンの下から、白いすわりとしたすねを出して立っていた。「もう、いいかあ。」はこの子だった。

(イ) 「もう、いいかあ。」はだれがいったのでしょうか。

- ① よし子 ② ジョール ③ オデット ④ 他の人

(ロ) それがやむと……のそれは何をさしますか。

- ① 「もう、いいかあ、もう、いいかあ。」という声
 ② ふたりの足音
 ③ 手紙を書くこと。
 ④ ふたりがかげながら何か話し合っていること。

(イ) それと向かい合って……のそれは何をさしますか。

- ① 前家の門 ② よし子とオデット
 ③ フランスの小むすめ ④ ジョール

(ロ) この文に出ているのは「私」を入れて何人ですか。

- ① 三人 ② 四人 ③ 五人 ④ 六人

八、次の文中、——線のある語について、あとの説明文のどれがてきと

うか。——線の部分の符号を□の中に書き入れなさい。

○ 風があるのに、雨(イ)さえ降り出した。

○ 起きるでもなく、ねるでもなくうつつらうつつらしている。

○ 水(ロ)しかのまない。

1 ぼんやりと二つ以上のことがらをならべてのべる意味をあらわしている。

2 「その上……までも」というように、他のことがらがくわるる意味をあらわしている。

3 ある一つのことからおあげて、他のことがらをしりぞける意味をあらわしている。

4 ある一つのことからをあげて、他のことがらをおしはかる意味をあらわしている。